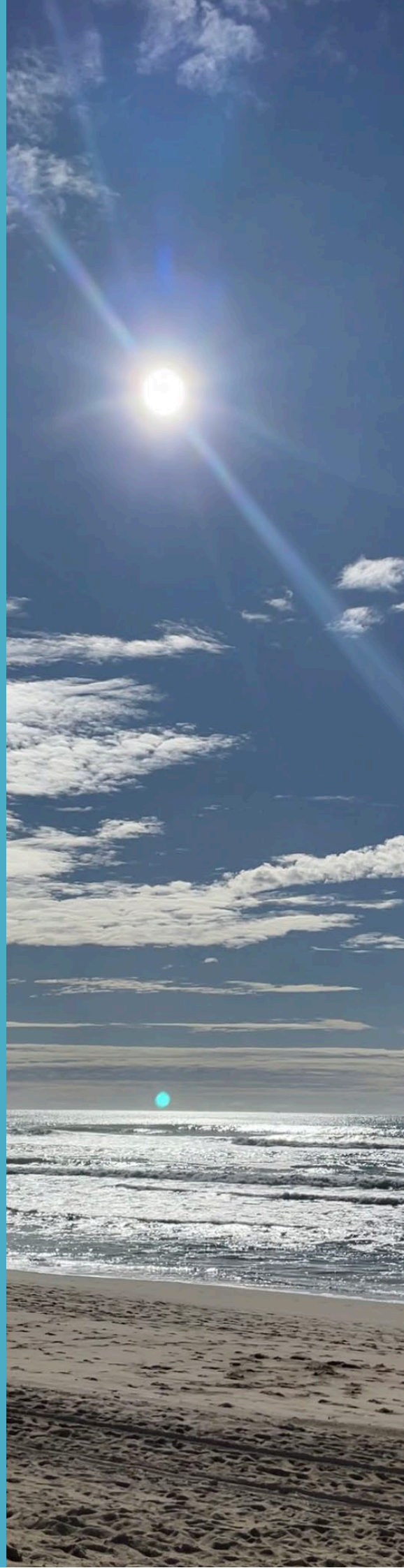


2023.MAY AUSTRALIA

Studying abroad report

Namiki Hirohama
5月 月例報告書
Southern cross university in GC

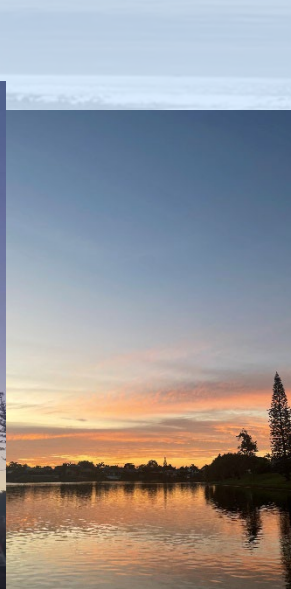
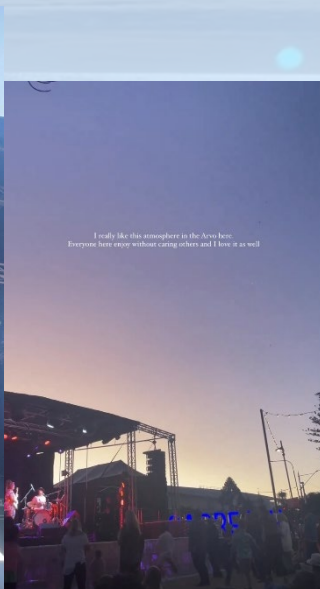


“MAY.”

「挑戦」と「慣れ」の5月であった。そして、大きな心情の変化を感じた月でもあった。家族が恋しくて重度のホームシックを負っていた私だったが、日本に帰りたくなくなってきました。留学生活が残り、半年しかないと考えると悲しくなってくる。時間はあっという間に過ぎる事を実感した瞬間、焦りや葛藤も出てくるようになった。生きてるだけで偉い・頑張ったと留学当初は思っていた事が、今では出来て当たり前、もっと努力できると自分を追い立てるようになってしまった。慣れって怖い。しかし、今月の自分も成長できたと感じる。それは、新しい事に挑戦できたからだ。英語の伸びや大学の新学期、日常生活に触れながら今月の留学生活について報告していきたい。



6時に起きて、ビーチでボーっとする最高の時間。



Blues music ♪
夕方は芝生に寝転んでChill out～

お家のお庭で勉強するのが最近のブーム

“I got a job 😊 お仕事ゲットしました ”

今月のチャレンジとして、バイトをゲットした!!オーストラリアの学生ビザは、珍しい事に就労可能なため「学ぶ」+「働く」事ができる。そして、オーストラリアの最低賃金は21ドル(1900円)と世界で一番最低時給が高い。海外で働くなんてカッコいい!! と考えた私は軽い気持ちでバイト探しを始めた訳だが、かなり大変であった。

“Job Hunting バイト探し“

海外のバイト探しは日本とは全く異なる。基本的にアポなしでお店に飛び込み、直接履歴書を渡し自分を売り込みに行くという結構勇気のいるものだ。上手くいけばその後、お店から連絡が来て面接とトライアル(採用試験)を受け合否が決まる。しかし、悲しい事にほとんどの履歴書はマネージャーにも届かずゴミ箱行きか、マネージャーに届いてゴミ箱行きだ。現在、ワーホリの数が急激に増えた事などから仕事の需要が高まり、仕事をゲットするのがとても厳しい状況だ。しかし、ウジウジしていても仕方がなかったので好奇心旺盛・楽観的行動派の私はとりあえずやってみることにした。ビッグスマイルで挨拶をして募集の有無・自己アピール・可能勤務時間を伝え、退散する。日本人が密集するJapanese restaurants、通称：ジャパレスでは働きたくなかったため、オーナーやお客さんがネイティブのカフェやレストラン、通称：ローカルを狙い続けた。結果、30軒以上のお店に通い、連絡が来たのはたったの2軒。面接を受けに行ったが、滞在が1年未満であるためその場で即不採用になった。メンタル折れそうになっていた時、ローカルのサラダカフェから連絡が来て面接とトライアルを受ける事になった。英語を使いながらの仕事は大変だったがとても楽しかった。一通りの作業の説明を受け、野菜を切ってサラダを盛り付け提供する。私がトライアルを受けている最中にも、仕事の応募に来る人がいてオーナーが持っていた履歴書の山を見て雇ってもらえるか不安だったが、後日合格の連絡があり翌週から働くことになった。

“Working at a local salad restaurant ”

人気観光地にあるサラダ専門店でバイトをしている。時給は24ドル(2200円)と非常に高いが、仕事内容は大変だ。接客に加え、野菜や果物の切り方・調理の仕方。また、ベジタリアン・ビーガン・アレルギーの方向けのカスタマイズなど覚える事も多い。しかし、新しい事を始めるのはやはり楽しい。海外での仕事は、人生経験にもなり、新しい知識を得る事ができる。そして、英語ができないと本当の致命傷になるため良い意味で自分を追い込むことができる。接客英語や業務内容の指示などの確に英語が使えなければいけない。バイトを通して、英語力やコミュニケーション能力・ビジネスマナー・接客スキルを身につけたいと思う。ここでできる事は全て挑戦していきたい。

“Term 2 in Uni”

Term2は、サービス業を学び、コミュニケーション能力・カスタマーサービススキルをつけるService Quality Management。異文化理解・政治・環境問題に触れながらグローバル経済について学ぶThe interconnected worldを受講した。苦行だった。Disasterだった。グループアクティビティーを中心に授業は進行されるのだが、グループメンバーの英語と進行が速すぎる・会話に入れない・ものすごい疎外感を感じ、愛想笑いの連続。海外では、自分の意見が言えない奴は空気と化す事を感じた。日本の学校でやる英会話やスモールトークの次元の話ではないのだ。専門的な知識を持ち、それを学術的に話す英語の力がここでは必要とされる。せめて、グループプレゼンテーションは完璧にこなそうと念入りに準備をし自分のパートを満足いくまで仕上げた。しかし、提出1日前になっても他のグループメンバーが提出してくれず、提出期限の延長を要求した。結局、2人のメンバーは最後まで提出しなかった。本当にストレスだった。もう一方の授業では、架空のリゾート地・そこで提供するサービスについてのレポートを中国・ドイツからの留学生と作成した。留学生がどれだけ大変か語り合い、傷を癒しながらの作業は楽しかった。あのまくし立てて話してきたオーストラリア人!!絶対見返してやる!!

“How did my English improve in 3 months”

それで、大金払って辛い思いして3ヵ月オーストラリアで過ごしてみて英語力はどうなったの。きっと皆さん気になっているだろう。私も気にしている。回答は、「分からない!!でも、きっと伸びているだろう!!。」身長が伸びたのが自分で分からないのと同じように、感覚的に英語力の伸びは分からないのだ。つい最近まで英語力の伸びが自分で感じられず落ち込んでいた。家族に会いたくて号泣していた、ホストファミリーのトラブルで安心して寝れない状況下にいた当初と比べ、今は友達もいるし生活にも慣れ1人でベーグルとコーヒー片手にビーチで朝活できるような慣れと余裕がでてきた、すると同時に自分の英語力への焦りと不安も出てくるのだ。しかし、英語の伸びを感じた決定的瞬間があった。それは、電話対応や事務作業が英語で不自由なく出来た時だ。仕事をするのに必要な書類の申請・税金手続きのため税務署に電話をかけるなど、英語を話す事への抵抗はないし日常会話+ aの英語力は確実についたなと実感する。ここに来て思った事は、留学に来たから英語をペラペラに話せるようになるなんて夢物語だということ。留学に来て、英語をもっと勉強しなければいけない状況に置かれ死ぬ気で勉強するから英語は伸びるのだ。後、日本人舐められすぎ。あなた英語上手なのねと私レベルで褒められる。英語学習に力を入れてきた自分を卑下する意味ではないのだが、日本人=英語話せないのレッテルを張られているのだ。しかし、悲しい事にこれは事実。ソーシャルイベントに行った時にも、ヨーロッパなど各国から来た留学生やワーホリの方々とは話しをしている際、グループ内の大半の日本人は会話にも入れずずっと愛想笑いをしている程度だった。読み書きに特化する古い英語学習を捨て、日本の英語教育はスピーキング能力を伸ばすための改革を起こすべきだと強く感じる。英語教員志望の友人に希望を託す事としよう…

“My Daily Life”

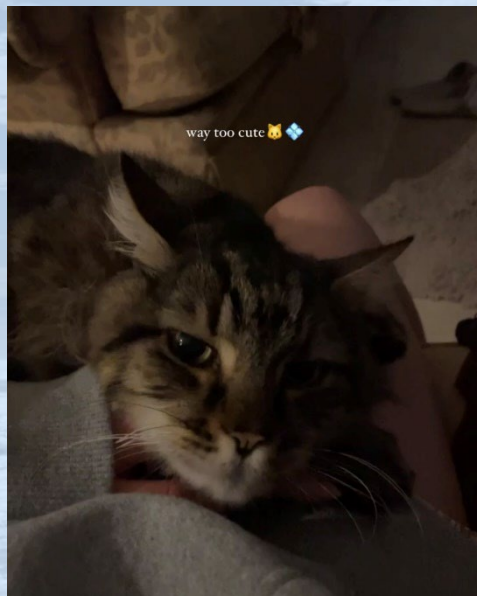
相変わらずexcitingな毎日を過ごしている。昨日、洗浄中の食洗器を開けたら中にG、通称ゴキブリがいた。日本の奴の2倍はあった。叫びそうになりながら、仕事場にいるホストマザーに私はどうすればいい!?何をしたらいい!?と連絡をすると、体を拭くタオルを渡してあげてと返信が来た。キツイ Aussie Jokeだ。バイト帰りに歩いていたら、ビッグサイズのネズミが飛び出してきた。部屋に手のひらサイズの蜘蛛がいたこともある。これがゴールドコーストなのだ。

“Homestay”

ホストマザーとも猫ちゃんともとても仲良しになり、とても楽しいステイ生活を送っている。ホームステイは生きたネイティブの英語を学べる最高の学習環境だ。ホストマザーの話すAussie English (スラング)も、学校では教えてもらえないSwear wordsも対応できるようになってきた。そして、食事が毎日豪華!!一週間に2~3回はBBQをしている(笑)マザーが仕事帰りにケーキやお菓子を買ってきてくれたり毎日甘やかされている。留学から太って帰ってきたくはないので、勉強のリフレッシュも兼ねてズンバとヨガを毎週するようになった。毎日大変だが、充実していて幸せ。



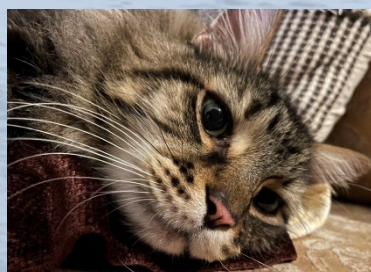
BBQ😊



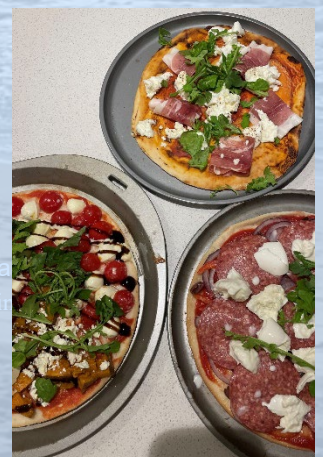
実家の猫ちゃんよりも懐いてもらった。

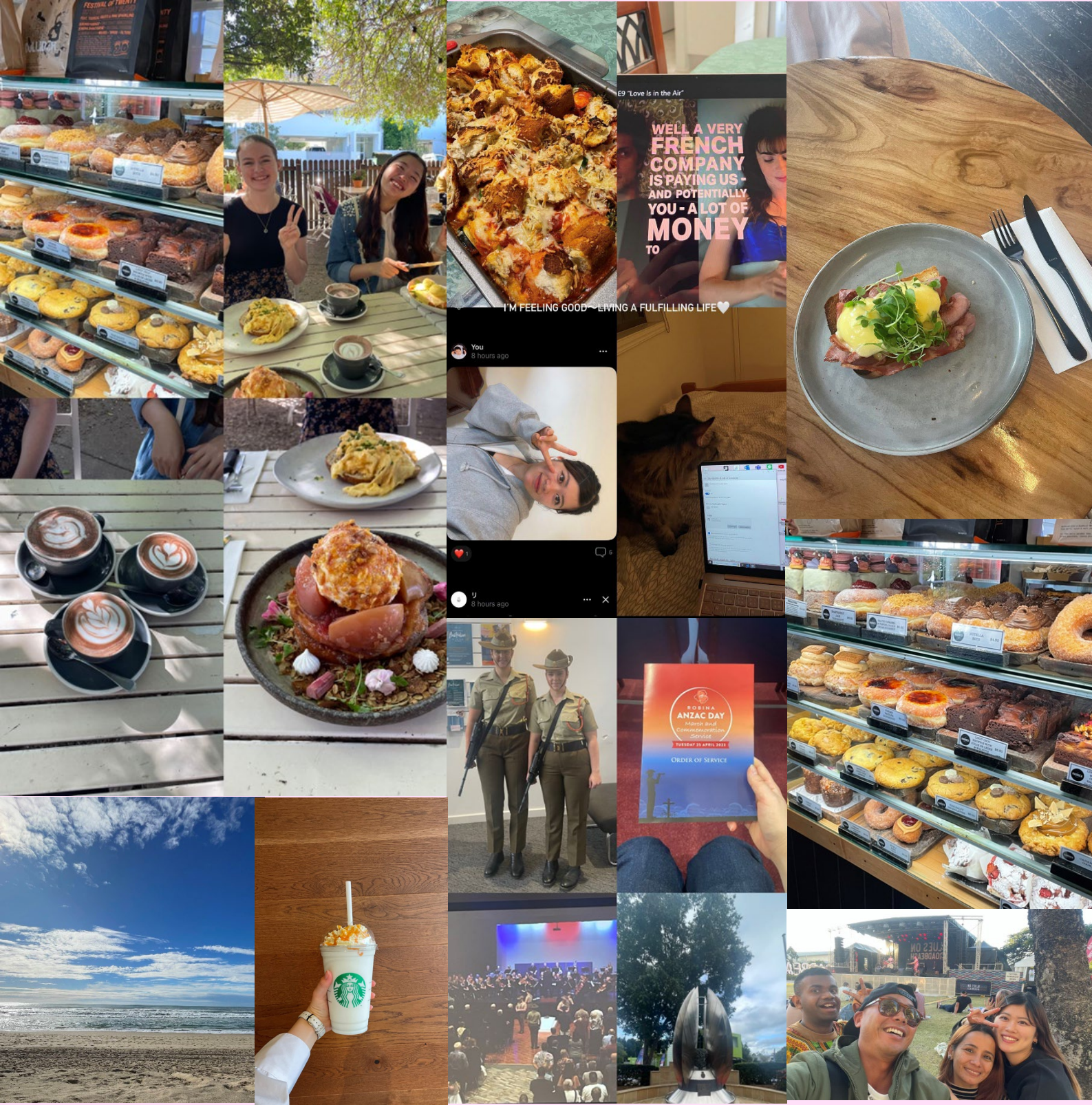


Zumba^^



Readers of accurate n





Thank you

留学に来て本当に良かった。もう既に留学の魅力にハマっている。浜松生まれ育ちの私は外に出て暮らした事が無かったため、当初はとても不安で正直渡航一日前も留学に行きたくないと言っていた。しかし、一歩飛び出してみれば、ここは人生をもっと楽しむことのできる場所だった。オーストラリアは何より生きやすい。フレンドリーで温かい人々、綺麗なビーチと自然、ゆったり自分のペースで過ごしている。もう既に日本に帰りたくないなあと思いつつも、残り半年悔いのないよう、出来る事すべてやって色々な事を吸収して、成長した自分を日本の家族や友達に見せられるよう頑張りたい。